



ひだまり

2026.5.1 No.3

<社会生活との関わり編>

5月5日は“端午の節句”の日でもあり、“こどもの日”でもあります。端午の節句の由来やこいのぼり・菖蒲などにどのような思いが込められているかを子どもたちに話をしました。

「こどもの日」とは…

1948年に、『子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日』という主旨で定められた国民の休日です。

「端午の節句」とは…

昔、中国では五月は悪い月とされ、薬草を使って悪い気を祓っていました。「端午の節句」は月の初めの午の日という意味で、災厄から逃れるための行事として伝わったものです。

日本では田植えの時期。田植えは昔、女性の仕事だったのでこの日は女性だけが菖蒲をふいた屋根のある小屋に集まって過ごし大切にされました。そこから「菖蒲の節句」＝「女の子の節句」と呼ばれていました。しかし江戸時代になると菖蒲が「尚武（武を重んじること）」に変わり、男の子の節句となり、^{のぼり}職や兜、武者人形を飾って祝うようになったそうです。

“端午の節句”と“こどもの日”は同じ日であるため混同されがちですが、異なるものです。大きな違いは、端午の節句は古くから災厄や病魔を祓う日本の伝統行事であるのに対して、こどもの日は国が定めた祝日。端午の節句は男の子の健やかな成長を祝う日であるのに対して、こどもの日は性別に関わらず、子どもたちみんなをお祝いする日、お母さんに感謝する日だとされています。

<端午の節句に関する物の由来>

こいのぼり…中国・黄河の「竜門」という急流の滝を登りきった鯉は、龍になるという故事に由来し、「人生の中で困難に遭遇しても、この鯉のようにたくましく立ち向かい、やがて成功する」ことを願って、江戸時代から盛んに立てられるようになったそうです。

ちまき…笹には整腸作用があり、健康によい食べ物と考えられていました。

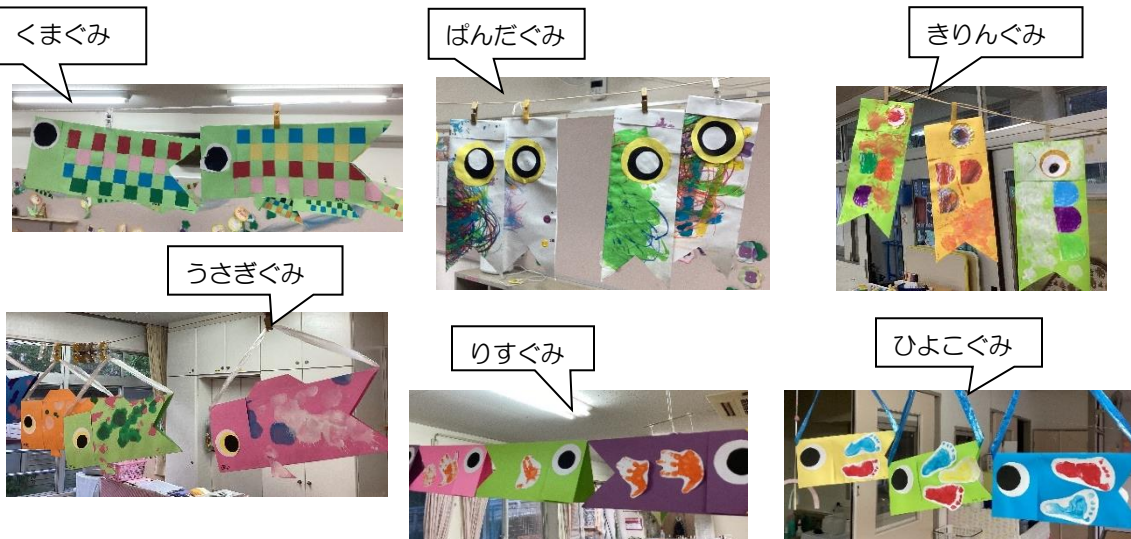
中国の故事には、難を避けるという意味があります。

柏餅…柏の葉は、新芽が出ないと古い葉が落ちないという特徴があるので、「柏の葉」＝「子孫繁栄」との意味で、縁起の良いものと考えられてきました。

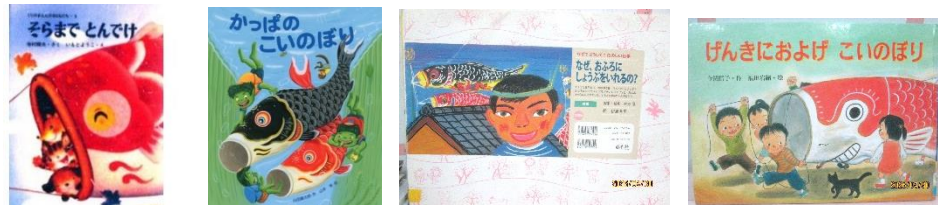
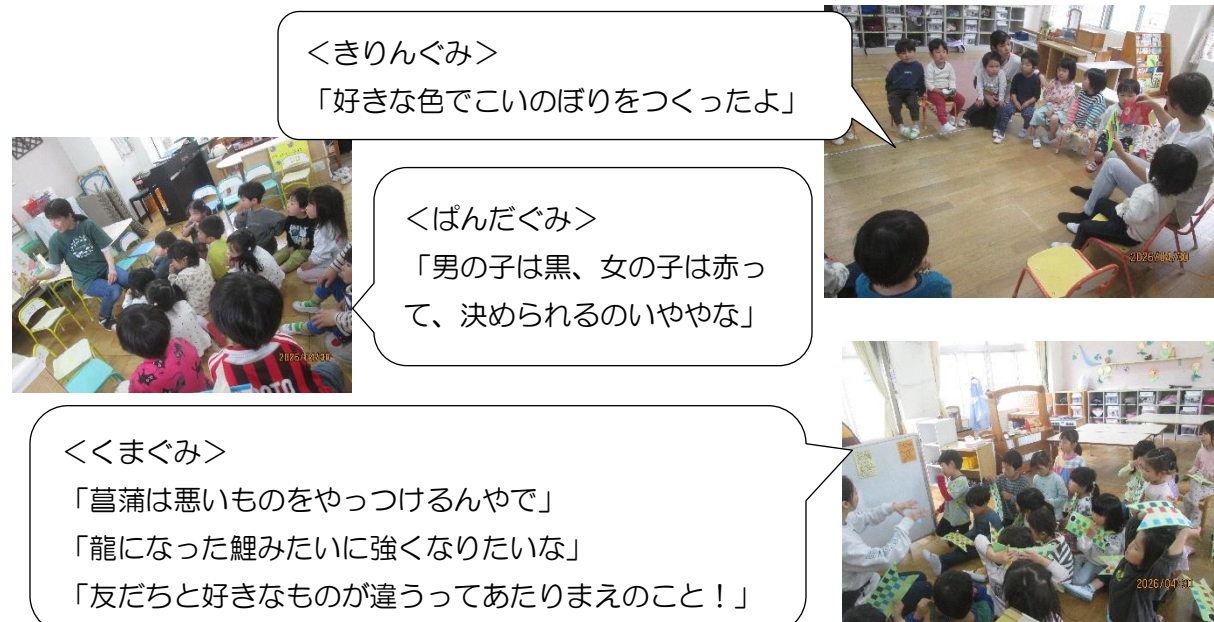
菖蒲湯…菖蒲は昔、魔除けに使われていた草で、体を清める意味があります。



吉川保育所では、男の子・女の子にこだわらず、子どもたちがすくすくと元気に成長してほしいという願いを込めて、クラスごとに『こいのぼり』を作りました。作ったこいのぼりは4月30日（木）に持ち帰りました。ぜひ、飾ってくださいね。



幼児クラスでは、各クラスで絵本や紙芝居を読んだり、こいのぼりや菖蒲など端午の節句に関する物について話をしたり、「男の子だから、女の子だからと言われたらどうかな？」と考えたりしました。



部屋で読んだ絵本・紙芝居です。